

2021年卒
Vol. 8

6月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2021 学生モニター調査結果 (2020年6月発行)

2021年卒業予定者の採用面接が今月1日に正式に解禁され、就職活動が山場を迎えている。ただ、今年は新型コロナウイルスの影響で選考時期を遅らせる企業も目立つ。6月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況を調査したところ、内定率は前年同期を約7ポイント下回った。コロナ禍で進行する就職活動について分析したい。

1. 6月1日現在の内定状況

- 内定率は64.0%。前年同期実績(71.1%)を7.1ポイント下回る
- 就職活動終了者は全体の35.2%。前年(43.9%)を8.7ポイント下回る。継続者は64.7%

2. 内定を得た企業の属性

- 「情報処理・ソフトウェア」が依然最多。2位「建設・住宅・不動産」、3位「電子・電機」
- 内定企業の従業員規模は、5,000人以上の大企業が3割強(34.1%)で最多に

3. 選考解禁日(6月1日)の呼び出し状況

- 企業から何らかの案内を受けた学生は40.1%。前年(45.5%)より5.4ポイント減少
- 「最終面接」は対面10.4%、オンライン10.6%

4. 選考試験の受験状況

- エントリーシートの提出社数は14.4社。前年同期(13.2社)を1.2社上回る
- 選考試験の平均受験社数は、筆記10.1社、面接7.4社。いずれも前年同期より微増

5. 就職活動継続学生の動向

- 内定を得ても就職先を決めていない理由「本命の企業がまだ選考中」55.1%
- 新たな企業を探す手段は「就職情報サイト」86.1%、「オンライン合説」20.8%の順

6. インターンシップ参加企業の本選考への応募と内定

- インターン参加企業の本選考への応募は84.7%。応募者の57.6%が内定獲得。前年より増加
- 本選考への応募理由「インターンシップを通じて志望度が高まった」(80.9%)が最多

7. 内定企業への意思決定に必要なフォロー

- 決定にあたり、「内定企業からのフォローが必要」90.8%。前年(88.7%)よりさらに増加
- 必要なフォローは「現場社員との面談」「人事担当者との面談」「社内・施設見学会」の順

8. WEB面接によるミスマッチ

- WEB面接がミスマッチにつながると考える学生は約6割(59.7%)

調査概要

- 調査対象 : 2021年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
 回答者数 : 1,204人(文系男子379人、文系女子355人、理系男子330人、理系女子140人)
 調査方法 : インターネット調査法
 調査期間 : 2020年6月1日~4日
 サンプルング : キャリタス就活2021学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

1. 6月1日時点の内定状況

6月1日現在の学生モニターの内定率は64.0%。先月調査(5月1日現在)の50.2%から1カ月で13.8ポイント上昇したものの、前年実績(71.1%)を7.1ポイント下回る数字となった。前々年(2019年卒者、65.7%)をも下回った。

就職戦線は売り手市場を背景に早期化が進んできた。今年も序盤は早いペースで進行していたが、緊急事態宣言が出された4月以降は採用活動が停滞する企業が目立ち、内定出しのペースが鈍化。5月調査では前年同期比微減にとどまっていたのが、この1カ月で前年との差は広がった。

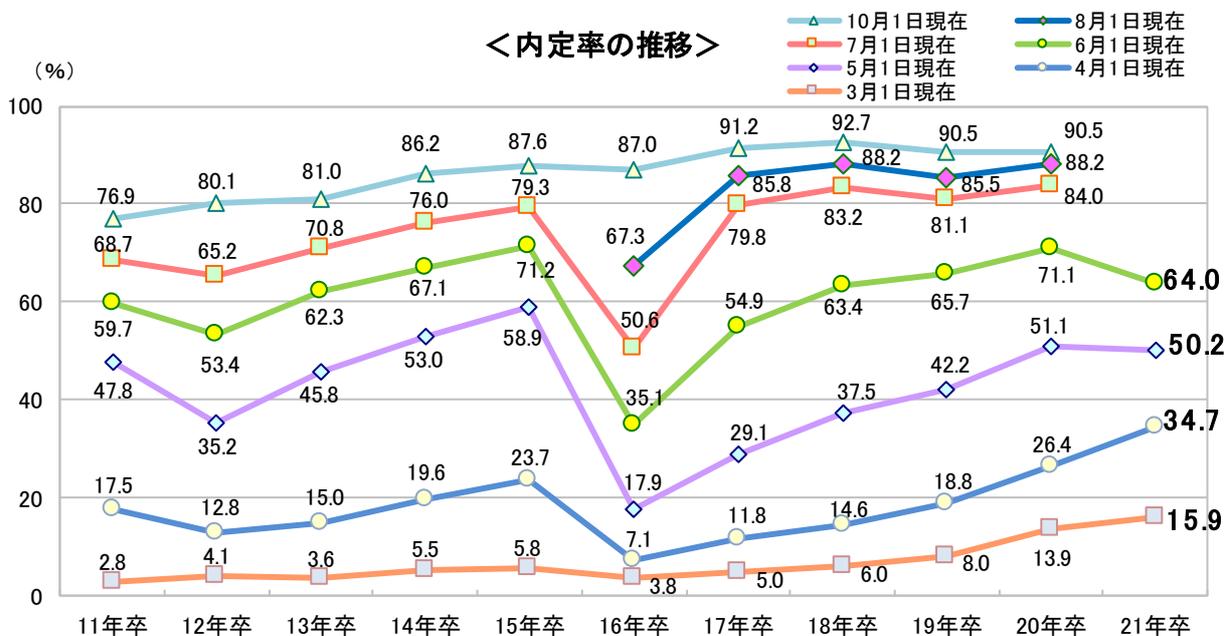
内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは50.4%。前年同期(54.6%)を4.2ポイント下回った。内定者のうち44.9%が就職活動を続けていると回答した。

＜6月1日現在の内定状況＞ *「内定」には、内々定を含む

| | | 内定率 (%) | | | | |
|--------|-----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | 全体 | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
| 内定あり | | 64.0 (71.1) | 56.2 (64.3) | 63.9 (72.6) | 69.7 (73.7) | 71.4 (79.7) |
| 内定なし | | 36.0 (28.9) | 43.8 (35.7) | 36.1 (27.4) | 30.3 (26.3) | 28.6 (20.3) |
| 内定者のうち | 就職先を決定し活動終了 | 50.4 (54.6) | 40.4 (47.1) | 41.0 (45.4) | 61.3 (66.4) | 68.0 (67.8) |
| | 活動は終了したが複数内定保持 | 4.0 (6.4) | 3.8 (8.8) | 6.2 (5.9) | 3.5 (5.3) | 1.0 (4.2) |
| | 進学などの理由で就職活動を中止 | 0.6 (0.8) | 0.9 (0.4) | 0.4 (0.0) | 0.9 (2.0) | 0.0 (0.8) |
| | 就職活動継続 | 44.9 (38.3) | 54.9 (43.7) | 52.4 (48.7) | 34.3 (26.2) | 31.0 (27.1) |

| | | 内定社数/平均 (社) | | | | |
|---------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | | 全体 | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
| 内定社数/平均 | | 1.9 (2.1) | 1.8 (2.2) | 1.8 (2.2) | 2.2 (2.0) | 1.7 (1.9) |

※ () 内は前年(6月1日現在)の数値

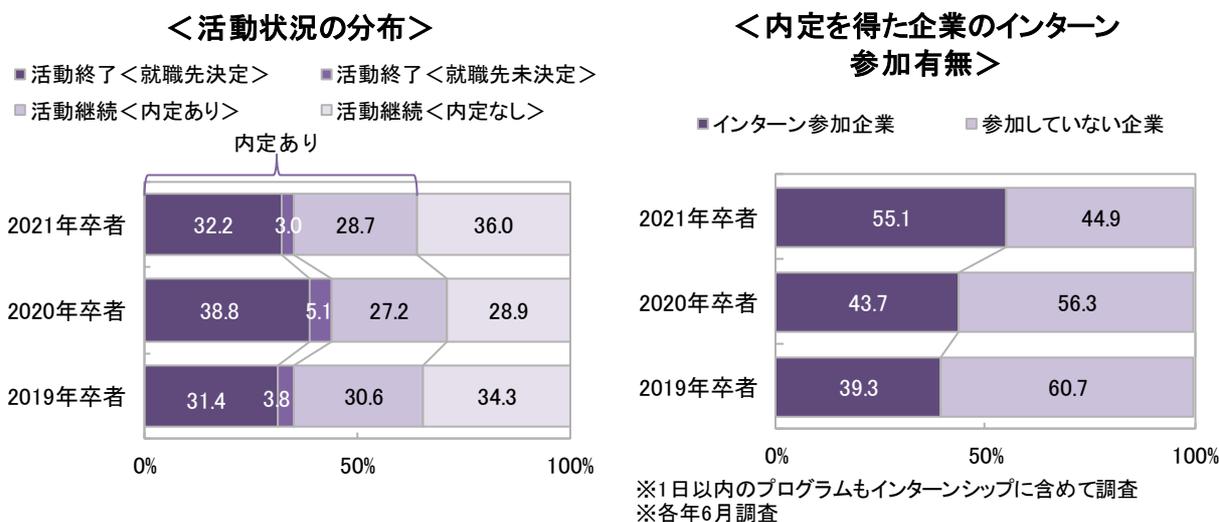


※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~21卒は6月 ※15年卒以前は8月のデータはなし

モニター学生全体を分母にとると、調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は32.2%。複数内定を保留しているなど未決定である者(3.0%)を合わせると終了者は35.2%となる。内定率の低下だけでなく、内定者における就職先決定者の割合も低下したことで、前年(43.9%)より大きく減少した。

活動継続者は「内定あり」(28.7%)、「内定なし」(36.0%)を合わせて64.7%。内定の有無に関わらず、多くの就活生にとってこの6月が大きな山場となるだろう。

なお、内定を得た企業のインターンシップ参加経験を経年で見ると、インターン参加企業の割合はこの3カ年で大きく増加している。特に今年は大幅に増加したが、インターンシップからの内定がやや増加したことに加え(後述)、3月以降の採用活動の停滞で、一般ルート(インターン参加学生以外)の選考を思うように進められていない企業が多いことも要因と見られる。



2. 内定を得た企業の属性

6月1日現在で内定を得ている学生に内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた(全40業界。複数回答あり)。5月調査に引き続き「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」が最も多く、32.2%と依然内定が集中している。文系男女と理系男子において1位で、いずれも3割を超えている。

全体の2位は「建設・住宅・不動産」(14.5%)で、3位「電子・電機」(10.9%)、4位「調査・コンサルタント」(8.8%)と続く。5位の「銀行」は、文系では男女とも2位にランクし、文系学生の内定が多いことがわかる。

＜内定を得た業界(上位5業界)＞

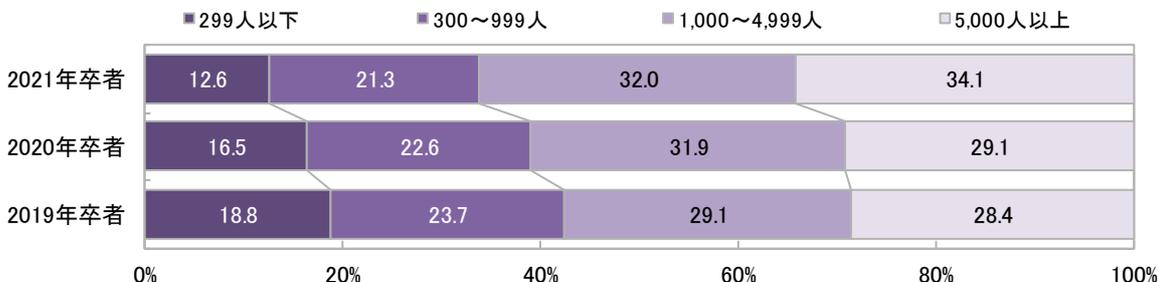
※6つまで選択 (%)

| | 全 体 | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
|---|---------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 1 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ① 32.2 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 31.0 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 34.4 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 33.9 | 建設・住宅・不動産 27.0 |
| 2 | 建設・住宅・不動産 ② 14.5 | 銀行 13.6 | 銀行 13.2 | 電子・電機 23.0 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 26.0 |
| 3 | 電子・電機 ③ 10.9 | 調査・コンサルタント 11.7 | 保険 12.3 | 建設・住宅・不動産 16.5 | 水産・食品 14.0 |
| 4 | 調査・コンサルタント ④ 8.8 | 商社(専門) 10.8 | 建設・住宅・不動産 11.0 | 機械・プラントエンジニアリング 13.0 | 医薬品・医療関連・化粧品 11.0 |
| 5 | 銀行 ⑤ 8.7 | 建設・住宅・不動産 10.3 | 調査・コンサルタント 9.7 | 自動車・輸送用機器 11.7 | 人材紹介・人材派遣 10.0 |

※○の中の数字は前年調査の順位

6 月時点の内定企業の従業員規模を経年で比較した。年を追うごとに大企業の比率が高まっており、今年最も多いのは「5,000 人以上」の企業 (34.1%)。コロナ禍で想定外のオンライン化が求められる中、中小企業において、より対応が困難で、採用活動が停滞あるいは中断してしまっているケースが多いことが推測できる。

＜内定を得た企業の従業員規模＞

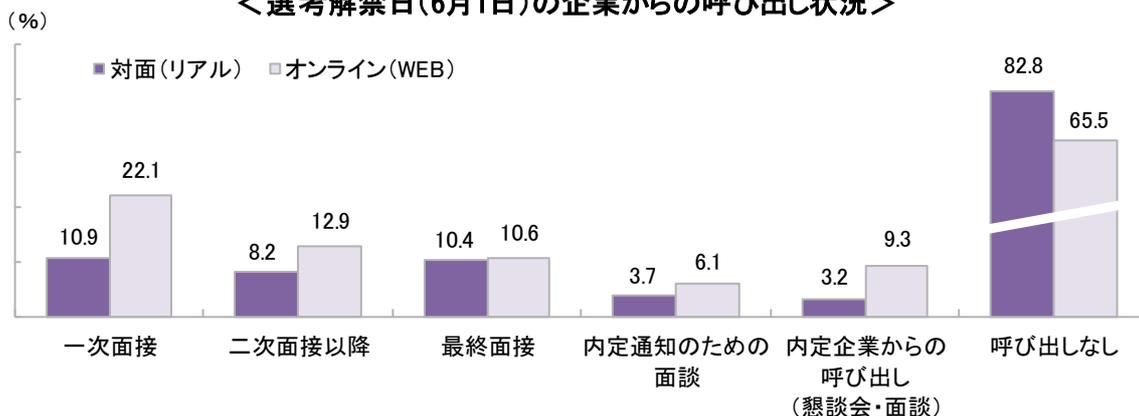


3. 選考解禁日 (6 月 1 日) の呼び出し状況

選考解禁当日 (6 月 1 日) に企業から声が掛かっていたかどうかを、今年是对面とオンラインに分けて調べた。対面での案内については、「なし」という学生が 8 割を超え (82.8%)、会社などに足を運ぶよう求められた学生はかなり限られていたことがわかった。「最終面接」についても対面よりオンラインのほうがやや多かった (対面 10.4%、オンライン 10.6%)。

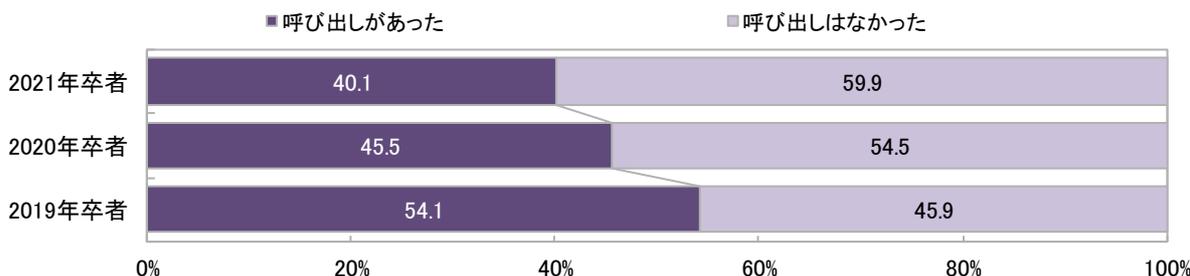
経年比較のために対面かオンラインかにかかわらず案内を受けていた学生の比率を出してみると 40.1%となり、前年 (45.5%) を 5.4 ポイント下回った。緊急事態宣言の全国解除から選考解禁まで日がなかったことで、セッティングが間に合わなかったケースもあれば、対面での場合は安全面を優先し、選考解禁日にこだわらないケースも多かったのではないだろうか。

＜選考解禁日(6月1日)の企業からの呼び出し状況＞



＜選考解禁日(6月1日)の企業からの呼び出しの有無＞

*対面・オンラインにかかわらず



4. 選考試験の受験状況

内定率は前年を下回ったが、選考試験の受験状況にはどのような変化があるのだろうか。

エントリーシート (ES) の提出社数の平均は 14.4 社。前年同期 (13.2 社) を上回る実績だ。危機感から意識的に提出社数を増やしている学生もいるだろう。また、筆記試験 (10.1 社)、面接試験 (7.4 社) の社数も同様に、前年同期をやや上回っている。新型コロナウイルス感染拡大の影響で選考試験のオンライン化が進む中、比較的日程の調整がしやすいことから、多くの企業を受けることができているものと推測される。

なお、グラフの「最終面接」の社数 (2.0 社) は、面接試験を受けた者を分母に算出したものであり、面接試験 7.4 社を受け、最終面接に進んだのが 2.0 社という計算になる。前年に比べ最終面接に進める割合は下がっているが、コロナ禍の混乱で全体的に選考のタイミングが繰り下がっていることが影響していると見られる。

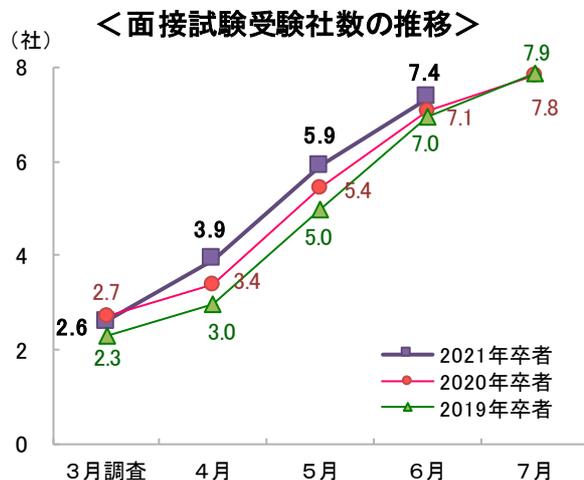
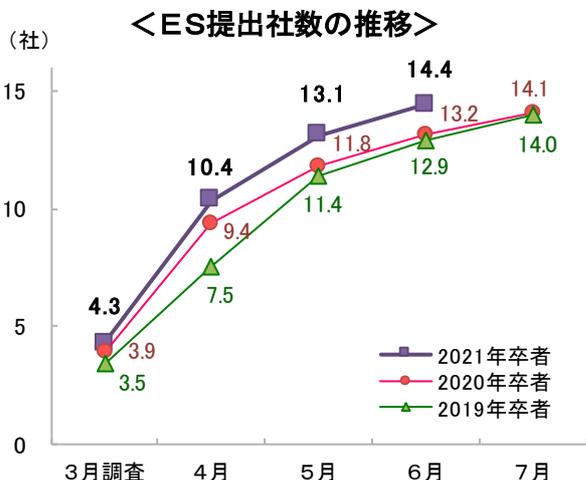
＜選考試験の受験社数＞



※それぞれ受験者を分母に平均社数を算出

※「最終面接」は、「面接試験」受験者を分母に算出

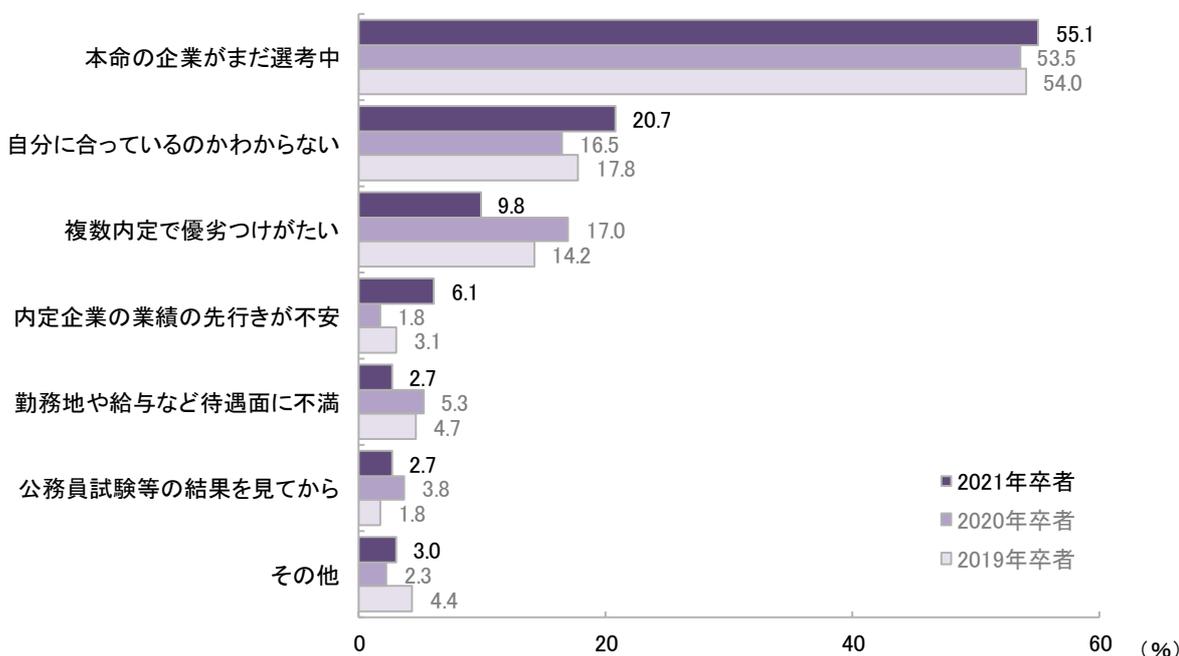
| | 全体 | (前年全体) | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
|----------|------|--------|------|------|------|------|
| エントリーシート | 14.4 | 13.2 | 17.2 | 15.8 | 9.9 | 13.9 |
| 筆記・WEB試験 | 10.1 | 9.4 | 12.0 | 10.8 | 7.8 | 8.3 |
| 面接試験 | 7.4 | 7.1 | 8.7 | 7.8 | 5.6 | 6.7 |
| 最終面接 | 2.0 | 2.3 | 2.0 | 2.0 | 2.1 | 1.9 |



5. 就職活動継続学生の動向

内定取得学生のうち就職先を決めていない者（モニター全体の 28.7%）にその理由を 1 つだけ選んでもらった。圧倒的に多いのが「本命の企業がまだ選考中」で半数を超えている（55.1%）。多くが本命企業の結果次第という状況だ。次いで、前年に 3 番手だった「自分に合っているのかわからない」（20.7%）が数値を伸ばし 2 番手となった。企業とのリアルでの接触が少なくなったことで、企業を判断できる材料が乏しくなったとも読み取れる。逆に、「複数内定で優劣つけがたい」という回答は 9.8%で、前年から 7 ポイントほど下がり 3 番手となった。複数内定を得た者が減少したことにより、前年より大きくポイントを下げた。

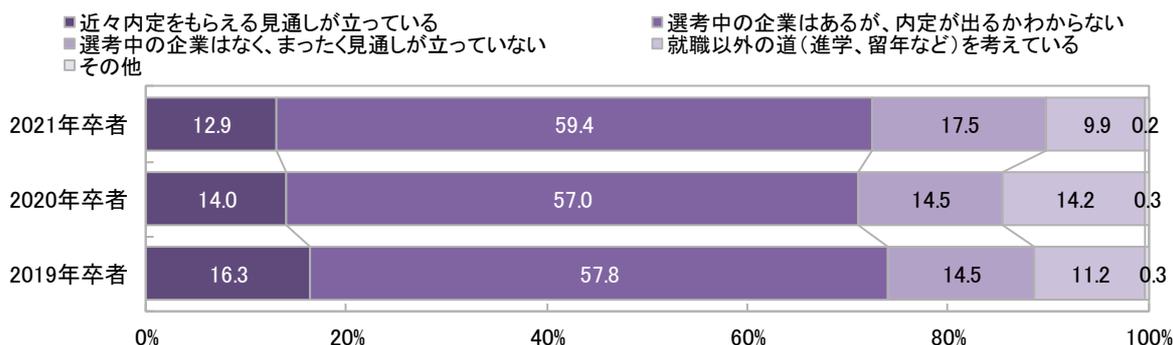
<内定保持者が継続する理由>



一方、未内定の学生（モニター全体の 36.0%）には内定獲得の見通しを尋ねた。「近々内定をもらえる見通しが立っている」は 1 割強（12.9%）にとどまり、最も多いのは「選考中の企業はあるが、内定が出るかわからない」（59.4%）。ここに「選考中の企業はなく、まったく見通しが立っていない」（17.5%）を足し合わせると 76.9%になり、未内定者の 7 割強が先の見えない状況にあるようだ。

なお、「就職以外の道（進学、留年など）を考えている」という回答は 1 割未満で（9.9%）、採用活動の遅れにより、就職以外の進路も模索するタイミングもやや遅くなっているようだ。

<未内定者が内定を得る見通し>



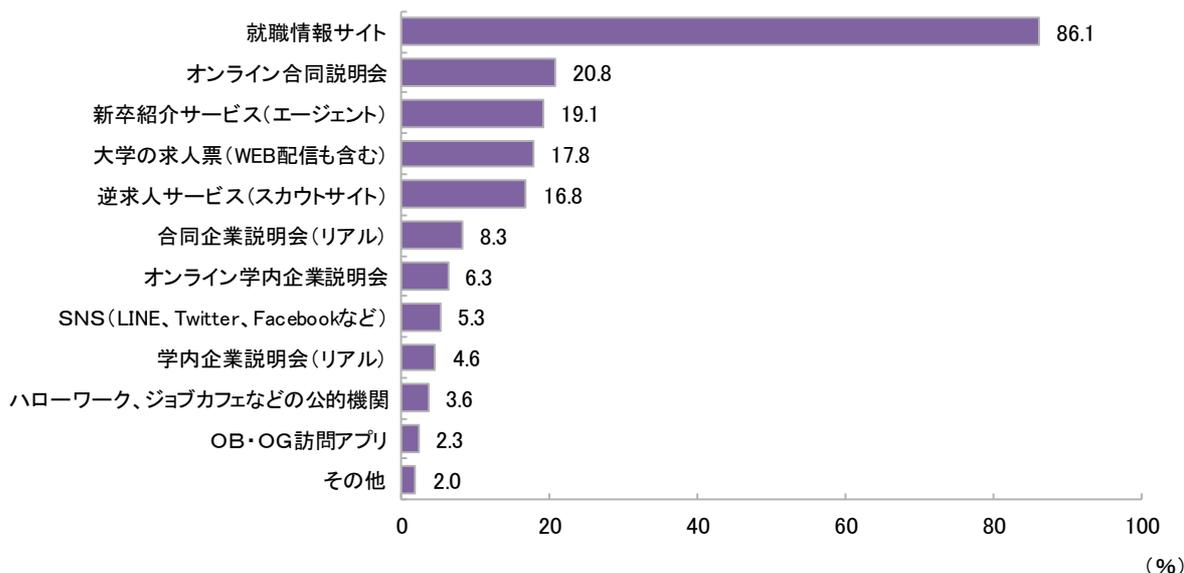
内定保持者も含め、就職活動を継続している学生（モニター全体の 64.7%）の、現在選考中の企業数は平均 3.9 社。これから受験予定の企業数（2.4 社）をあわせると、いわゆる持ち駒企業は 6.3 社。前年の持ち駒企業は 5.1 社であったため、1 社以上多い。企業の選考ペースが全体的に遅くなったため、前年よりも社数が多くなっているのだろう。

今後のエントリー予定社数を 1 社以上と回答した学生に、新たな企業を探す手段（ツール）を尋ねると、「就職情報サイト」が約 9 割（86.1%）と圧倒的に高い。企業探しのメインツールとして長く利用されていることがわかる。次いで「オンライン合同説明会」（20.8%）、「新卒紹介サービス（エージェント）」（19.1%）が続く。

<持ち駒企業数>

| | 全体 | (2020年卒者) | (2019年卒者) | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
|-------------------|-----|-----------|-----------|------|------|------|------|
| 現在選考中の企業数 | 3.9 | 3.0 | 3.3 | 4.6 | 4.1 | 2.8 | 3.6 |
| これから受験予定の企業数 | 2.4 | 2.1 | 2.1 | 2.9 | 2.7 | 1.6 | 1.6 |
| 今後のエントリー予定社数 | 2.4 | 2.3 | 2.3 | 2.8 | 2.8 | 1.6 | 1.8 |
| 今後の企業セミナー参加予定社数 | 1.7 | 1.4 | 1.7 | 2.0 | 2.2 | 0.8 | 1.5 |
| 今後のエントリーシート提出予定社数 | 2.1 | - | - | 2.4 | 2.6 | 1.3 | 1.6 |

<新たな企業を探す手段>



■就活継続学生の声

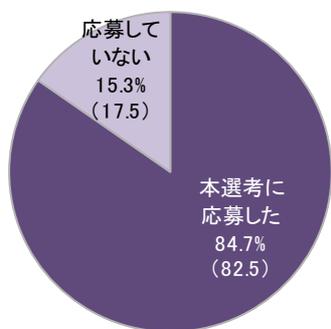
- 内定をいただいたが、就活を終えていいのかわからない。 <文系男子>
- 現状として就活の日程が後ろ倒しになっているので、現在の持ち駒がすべてなくなってしまった場合、また新たに動き出せるのが不安です。 <文系女子>
- 就活の本番はこれからだと思います。夏に向けてできることを少しずつ行い、少しずつエントリーシマイペースに進めていきます。 <文系男子>
- 焦る気持ちでいっぱいですが、志望業界を広く見て活動を続けようと思う。 <理系男子>
- 気持ちを維持しつつ、納得のいく就職活動にしたい。 <文系男子>
- 一社一社に対して全力で挑む体勢を崩してはならない。数撃ちや当たるではなく、この一社で決めると思わなければ、受かるものも受からない。 <理系女子>
- インターンにたくさん参加したつもりでしたが、もっと多く出たおけば良かったと痛感しています。 <文系女子>

6. インターンシップ参加企業の本選考への応募と内定

インターンシップの参加経験がある学生に、参加企業への本選考応募と参加企業からの内定の有無を尋ねた。「本選考に応募した」との回答は8割超(84.7%)で、前年調査(82.5%)を上回った。本選考応募社数の平均は4.9社。こちらも前年同期(4.6社)よりやや増加。本選考応募者のうち実際に内定をもらった経験を持つ学生の割合は57.6%と6割近い。前年調査(55.4%)をやや上回っており、インターン参加企業から内定を得る学生が増えていることがわかる。

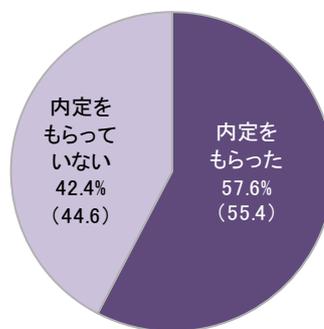
本選考に応募した理由を尋ねると、「インターンシップを通じて志望度が高まった」が約8割(80.9%)で圧倒的に高い。インターンシップに参加することで企業理解が深まり、就職先として意識するケースが多いことが数字に表れている。次いで「早期選考だった」(43.8%)、「インターンシップ参加学生の優先ルートがあった」(35.6%)が続いた。インターン参加から本選考へつながる動きが恒常化していることが読み取れる。

＜インターン参加企業の本選考への応募＞



* インターンシップ参加経験者が回答

＜インターン参加企業からの内定＞

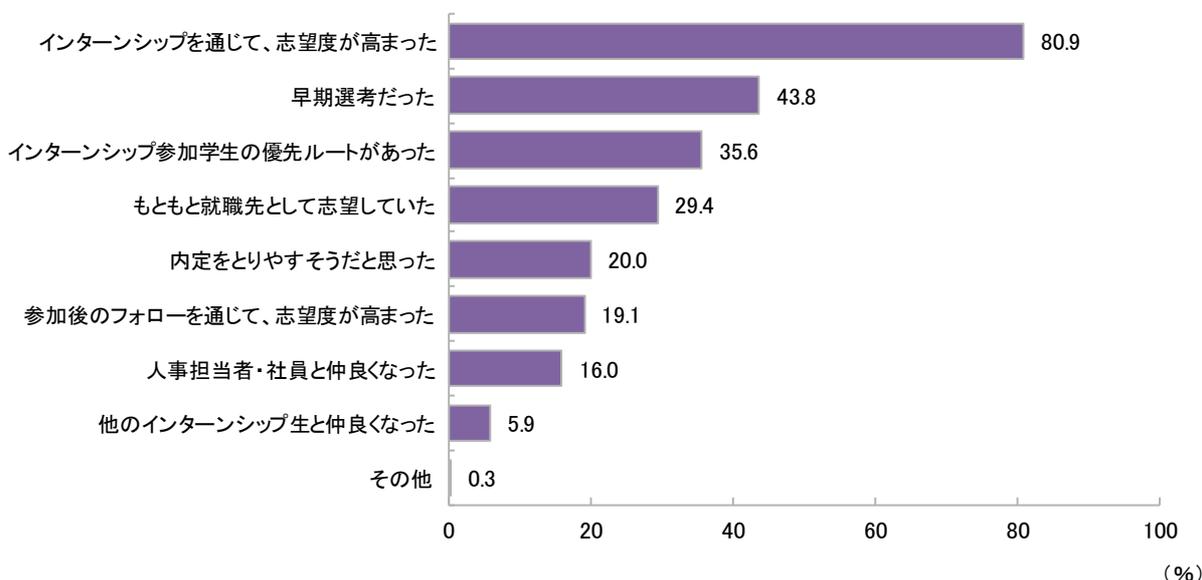


* インターンシップ参加企業の本選考応募者が回答

| | インターン参加社数 | プレエントリー社数 | 本選考応募社数 | 内定社数 |
|---------|-----------|-----------|---------|------|
| 2021年卒者 | 8.3社 | 6.2社 | 4.9社 | 1.6社 |
| 2020年卒者 | 7.8社 | 5.8社 | 4.6社 | 1.7社 |

※それぞれ、経験者を分母に平均社数を算出

＜本選考に応募した理由＞

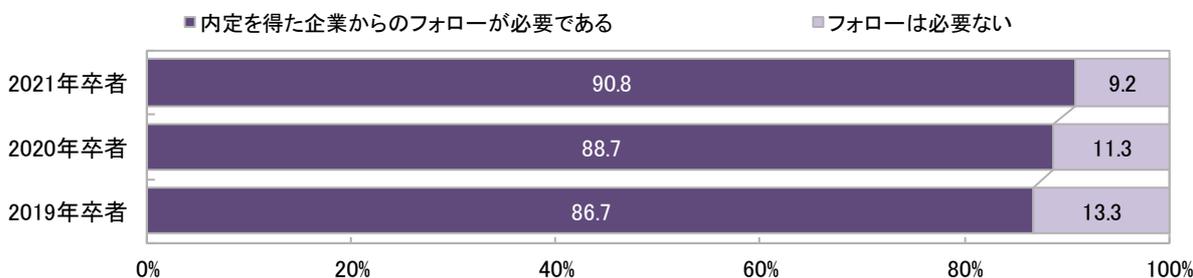


7. 内定企業への意思決定に必要なフォロー

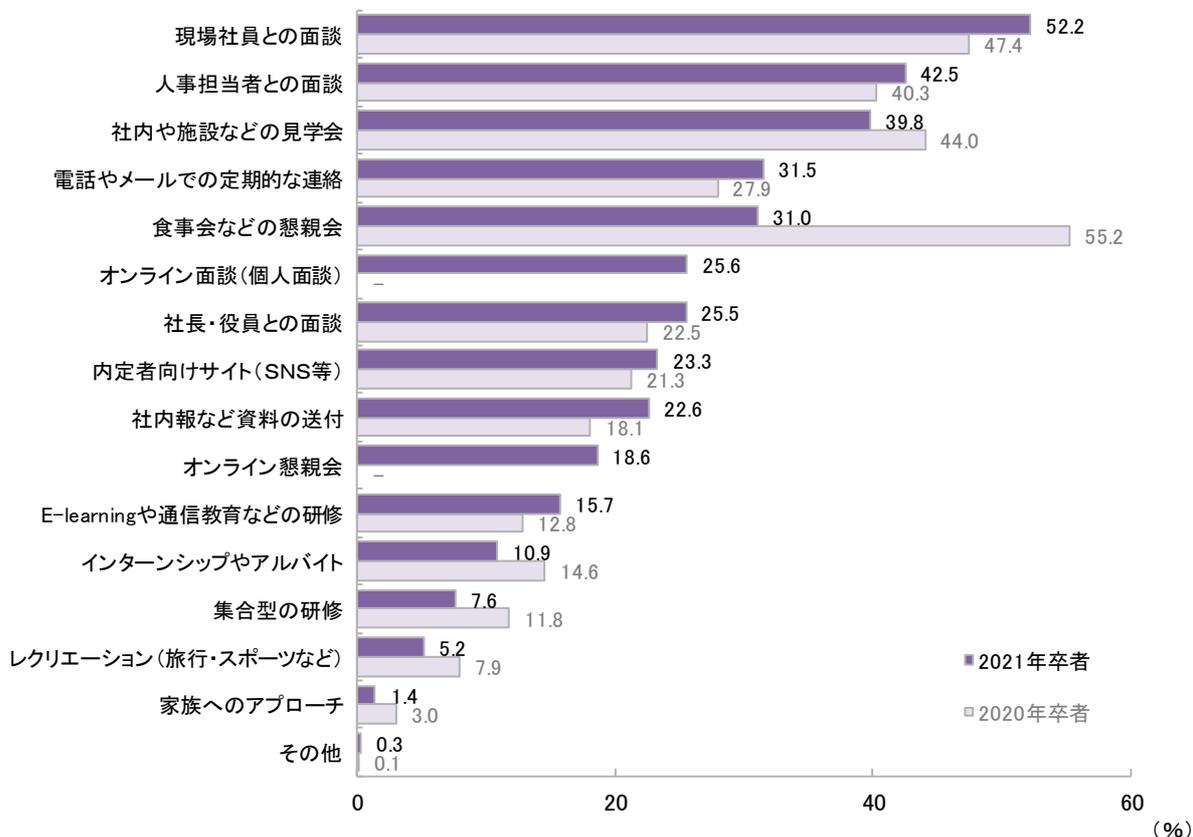
内定を得た企業に就職するかどうかを決めるために必要だと思うフォローについて尋ねたところ、「フォローは必要ない」との回答は9.2%にとどまり、就職先決定のために何かしらのフォローを必要としている学生が大半を占めた。前年、前々年よりポイントが増加。新型コロナの影響で直接的な接点が限られていたことで、内定後に改めて企業を知る機会や情報を必要とする学生が増えていることがうかがえる。

具体的な内容として最も多いのは「現場社員との面談」で過半数(52.2%)。「人事担当者との面談」(42.5%)、「社内や施設などの見学会」(39.8%)が4割前後で続く。「オンライン面談」(25.6%)や「オンライン懇親会」(18.6%)を大きく上回っており、意思決定の前に、直接足を運んで企業理解を深めたいという学生が多いことが推測できる。

＜意思決定のためのフォローの必要性＞



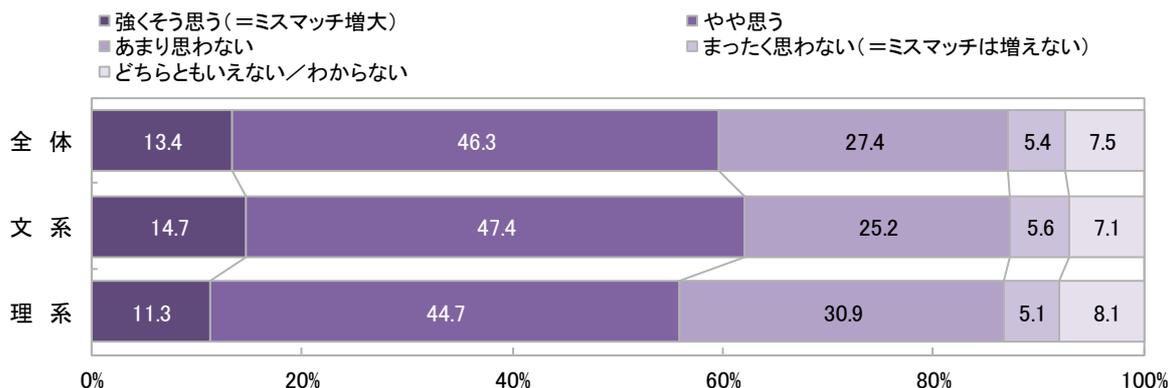
＜内定を得た企業への意思決定に必要なと思うフォロー＞



8. WEB 面接によるミスマッチ

新型コロナウイルスの影響で、オンラインでの選考が主流となったが、WEB 面接がミスマッチにつながると思うかどうかを尋ねた。「強くそう思う (ミスマッチが増大する)」は 1 割台だが (13.4%)、「ややそう思う」(46.3%) を合わせると約 6 割に上る (59.7%)。対面での面接と比べて、自分自身が正しく評価されているのか、会社のことを十分に理解できているのかなどを懸念する学生が多いようだ。企業には、こうした不安を解消するようなフォローが求められる。

＜WEB面接はミスマッチが増えると思うか＞



■志望度が上がった、嬉しかった内定後フォロー

- コロナ禍で他社の選考が遅れているのを考慮して、返答期限を長くしてもらえたこと。 <文系女子>
- 内定後も、オンラインで面談や座談会を設けてくれたので、不安が払拭された。 <文系男子>
- わざわざ私 1 人のために、先輩社員 2 人と人事の方 2 人で座談会を開催してくれたこと。 <理系男子>
- 選考が全部 WEB だったため、内定後の会社訪問や社長を含めた食事会の案内をしてくれたこと。 <文系女子>
- LINE でいつでも相談に乗っていただける態勢を用意していただいた。 <文系男子>
- これまでに関わったいろいろな人から、内々定祝いのメッセージが届いたこと。 <文系女子>
- 定期的にメッセージが届いて、会社の近況を知ることができるのが嬉しいです。 <理系女子>
- コロナでさまざまな人が生活に影響を受けている中、自社の生活支援の取り組みを内定者 SNS で多く発信していたこと。社会的責任をもっている企業であることを改めて感じた。 <理系男子>
- 同期が仲良くなるような企画をたくさんしてくれること。 <文系女子>

■志望度が下がった内定後フォロー

- 内定を受諾してから一向に音沙汰がないため、少し不安になる。個人的には、月 1 回くらいでいいので連絡がほしい。 <文系男子>
- 週に 1 度、電話面談をしなければならなかったこと。 <文系女子>
- 内定承諾期間延長をお願いしているときの、人事の方の高圧的な態度。 <理系男子>
- 他社の選考を早期に辞退するよう軽く圧がかけられた。他もじっくり見て納得する就活を、と余裕を見せてくれたほうが、志望度が上がる。 <文系女子>
- 内定承諾後、本社にて 6 月 1 日に面接があったことは無意味だと感じた。コロナ禍においてメリットがない行動は企業への評価が下がり、辞退しました。 <理系男子>
- 推薦状を貰えない時期なのに、教授の個人的な紹介状を求めてくるのは鬱陶しかった。 <理系男子>